

昆虫から飼料開発

ニチモウ
など ニジマスなど育成

ニチモウ、日本農産工業（横浜市西区）、住友化学、昭和興産（東京都港区）の4社は、国内初の取り組みとしてフルーツフライ（ミバエの一種の幼虫）のミールを配合した飼料を共同開発したと発表した。2023年秋から実施していたフルーツフライ試験を終え、開発飼料で育てたニジマスとウナギは異臭もなく、成長率、飼料効率、生残率の面でも通常の飼料と同等の性能を確認済みだ。

近年、田安や漁獲量の減少を背景に水産養殖飼料の原料の大部分で、たんぱく質源である魚粉の高騰が問題となっており、代替たんぱく質の必要性がより一層高まっている。協力企業であるイソエルのFlying SPARK（フライングスパーク）は、生産性の高い温暖な気候のタイでフルーツフライを培養。同社が提供するフルーツフライは昆虫原料の欠点であった独特な味や臭いが少なく、タイ国内の大手食品企業の協力によって衛生面や安全性に優位性がある。

また、フルーツフライミールには養殖魚の免疫力向上やストレス改善などの副的な効果も期待

されており、現在、研究機関と検証中だ。今後はニジマスやウナギの飼料のみならず、他の魚種の給餌試験を検討しており、持続可能な養殖事業につなげたい考えだ。